



企業及經營ノ意義ニ關スル疑問

上田, 貞次郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 9(5):737-753

(Issue Date)

1910-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051635>



企業及經營ノ意義ニ關スル疑問

東京高等商業學校教授

商學士 上田 貞次郎

(一)

先輩關一氏ハ前號ノ本誌ニ「經營ト企業ノ意義ニ就テ」ト題スル一文ヲ寄セテ博ク諸家ノ說ヲ紹介シ且此問題ニ關スル經濟學者ノ研究ノ不充分ナルコトヲ指示サレタリ。余モ豫ネテ同様ノ感ヲ抱キテ此疑問ヲ大方ノ前ニ提出シテ解決ヲ求メント思ヒ居タル際ナレバ尠カラザル感興ヲ以テ右論文ヲ迎ヘタリ。依テ此ニ余ノ形成シタル企業及經營ノ觀念ノ一斑ヲ述ベテ前號ノ寄稿者タル關氏ト關氏ノ論文ニ引照セラレタル舊師福田博士ト竝ニ一般讀者諸賢ノ批評ヲ請フモノナリ。

(二)

關氏ハシユモラー、ゾムバルト、福田三氏ノ說ヲ主トシテ評論シタル後同氏自身ノ說ヲ述ベラレタルガ余ノ觀ル所ヲ以テスレバ諸家ノ說ハ其詳細ノ點ニ至リテ

夫々特色アルニ拘ラズ大體ノ精神ニ於テハ一致セルモノナリ。而シテ余モ亦此大體ノ精神ニ對シテ異議ヲ有スルモノニアラズ。サレバ余ハ關氏ノ如ク「經營ハ生産ノ組織ナリ、企業ハ營利ノ組織ナリ」トイフモ大體上賛成ナリ。福田博士ノ如ク現今ノ經濟生活ニ於テ財ヲ獲得スル爲メノ組織秩序ヲ「技術上カラ見レバ」(經營)ト名ヅケ經濟上カラ見レバ「企業」ト名ヅケル「トイフニ至テハ全ク同意ナリ。即チ余ハ此場合ニ生産ノ組織ト技術上ノ組織トヲ同一視シ、營利ノ組織ト經濟上ノ組織トヲ同一視シ得ルナリ。蓋シ「生産」ノ意義ニ就テハアダム、スミスヲ祖述スル所ノ英米ノ學者ト歷史學派ヨリ出テタル獨逸ノ學者ト見解ヲ異ニスレドモ (Marshall, Principles, Book II. 津村氏國民經濟學第九章第三款) 此ニハ勿論英米學者ノ說ヲ參照スル必要ナシ。唯獨逸學者ノ說ヲ質セバ可ナリ。而シテ獨逸學者ノ言フ所ヲ聞ケバ生産ハ畢竟技術上ノ觀念ナリ。農生産トイヘバ植物動物ノ繁殖成長ヲ爲サシムルコトナリ。工生産トイヘバ手工ニ依リ又ハ機械ヲ用ヒテ、孤立的ニ又ハ協同的(ゾムバルトノ所謂社會的)ニ原料ヲ加工シテ製品トナスコトナリ。勿論技術上爲サント企テタルコトヲ成シ得タリトテ直チニ生産ガ行バレタリトハイフベカラズ。生産ニハ此技

術上ノ目的遂行ノ結果トシテ財ノ經濟上ノ價值ヲ増シタルコトヲ必要トスルナリ。然レドモ財ノ經濟上ノ價值ハ技術上ノ變化ノ有無ニ關係ナク人ニ與ヘラレタル財ノ分量ノ多寡ト人ノ生理的的心理的状態トノ變動ニ伴テ増減スルコトアリ。而シテ財ノ價值ガ技術上ノ取扱ナシニ増加サレタル場合ハ吾人之ヲ目シテ生産トナサス。技術上ノ取扱ニ依テ價值ノ増加サレタル場合、物質上ノ變化ヲ生ズルニ依テ價值ノ増加サレタル場合ノミヲ生産トイフナリ。(Philippovich, Grundriss. § 37, 38 津村氏原論第九章)サレバ經營ハ生産ノ組織ナリトイフモ技術上ノ組織ナリトイフモ其意味ハ同一ナリ。但シ余ニハ寧ロ技術上ノ組織トイフノ一層適切ナルヲ認ムル理由アレドモソハ後ニ至リテ説明スベシ。

次ニ「營利」ハ純然タル經濟上ノ觀念ナリ。生産ハ技術上物質上ノ取扱ヲ基礎トスルモ營利ハ必ズシモ此ノ如キ基礎ヲ要セズ。進歩ノ速カナル郊外ノ土地ヲ安く買置キテ其地價ノ騰貴スルヲ俟テ高價ニ賣放ツ場合ニハ毫モ生産ヲナサバレドモ營利ヲナシツハアリ。總テ交換、賣買、貸借、雇傭、請負等ノ如ク給付及反對給付ノ方法ニ依リテ自己ノ失ヒタル財ヨリモ大ナル價值ヲ有スル所ノ財ヲ得ル時ハ其處ニ

營利ノ行爲アリトイフナリ。^註生産ハ人類ガ「自然」ニ對抗シテ自己ノ生活ニ必要又ハ有益ナル財ヲ得ルノ法ナリ。營利ハ人ガ他ノ人トノ交渉ニ依リテ同ジク財ヲ得ルノ法ナリ。生産ハ自足經濟ノ下ニモ交通經濟ノ下ニモ均シク行ハルレドモ營利ハ交換經濟ヲ前提條件トシテ、特ニ貨幣經濟ノ發達ヲ待テ初メテ充分ニ行ハル、ナリ。自足經濟ノ下ニハ自己生産ノ外ニ財ヲ獲得スル方法ナクレドモ交通經濟ノ下ニハ自己生産ノ外ニ營利即チ他人ノ生産物ヲ獲得スルコトヲ得ルナリ。加之交通經濟ノ完全ニ進歩シタル社會ニ於テハ自足的生産ハ殆ド全ク廢レテ營利ノミが行ハル、コト、ナルナリ。現今文明國ノ經濟生活ニ於テハ財ヲ得ルノ方法ハ即チ營利ニ限ルコト、ナリタリ。併シ他人ノ有スル財ヲ獲得スルニハ自己ノ生産物ヲ以テ之ニ代ヘザルベカラズ。即チ自ラモ亦他人ノ爲メニ生産スルヲ要スルナリ。故ニ交通經濟ノ發達シタル現今ノ經濟生活ニ於テ。財ヲ獲ル爲メノ經濟上ノ組織ハ即チ營利ノ組織ナリ。而シテ此組織ハ其技術的側面トシテ通常生産ノ組織ヲ有スルナリ。前者ハ企業ニシテ後者ハ經營ナリ。

註 福田博士ハ尙此場合ニ「贏得(Erwerb)」と「營利(Gelderwerb)」トチ區別セラル(岡氏原論一七頁、三三頁、四二頁)

前ニモイヘル如ク營利ハ交通經濟ヲ前提トスレドモ生産ハ自足經濟ノ下ニモ行ハルハナリ。從テ營利ノ組織タル企業ハ交通經濟ノ大ニ發達シタル近世ノ產物ナレドモ生産ノ組織タル經營ハ既ニ中世以前ニ於テ存在シタリ。現今ノ大企業ハ企業者ノ意思ニ依リテ多數ノ人ノ協力ヲ爲サシムルモノナルガ此多數人ガ生産ノ爲メニ協力スル組織ハ古ヨリ存在シタリ。未開人ノ氏族經濟又ハ幼稚ナル村落經濟ニ於テハ同一團體ニ屬スル多數ノ人又ハ家族ガ開墾ノ爲メ、漁獵ノ爲メ、礦物採掘ノ爲メ、道路開鑿ノ爲メニ營利ノ目的ナクシテ單ニ共同ノ利益ノ爲メニ協力シタリ。(シエモラー原論ニ付 *Arbeitsgenossenschaft* ノ評論ヲ見ヨ)又古ノ大家族ニハ家長ノ指揮ノ下ニ其家族及奴隸ヲ協力セシメタリ。王公ノ宮中ニハ大ナル倉庫ト各種工場ヲ設ケテ其調貢品ヲ貯藏シ且加工シテ豪華ナル衣服調度ノ類ヲ製セシメタリ。(延喜式ニ出デタル王朝時代ノ大藏省ノ組織ヲ見ヨ)大寺院ニ於テハ其數百ノ僧徒ノ生活ノ資料ヲ生産センガ爲メニ技術ノ進歩ト分業ノ發達ヲ來シタリ。其他世界ノ古代史ニ舉ゲラレタル多クノ大建築物ハエジプトノ「ピラミッド」アッシリアノ石階、ギリシア、ローマノ神殿ヨリ各國封建時代ノ城廓ニ至ルマデ一トシテ交

通經濟以前ノ協力的生産、企業ナカリシ社會ノ經營ノ如何ニ技術ニ富ミ、分業ニ富ミ、組織ニ富ミシカラ示スモノニアラザルハナシ。人類ハ營利心ノ發生前ニ於テ既ニ永ク多數ノ協力ニ慣ラサレタリ。經營ハ企業發生前ニ於テ既ニ往々驚クベキ大規模ノ組織ヲ成シタリ。企業ハ結局此古ヨリ存在シタル大規模ノ經營ニ營利ノ精神ヲ結付ケタル經濟上ノ組織ナリ。(Schmoller, Grundriss, S. 138.)

大體ヨリイヘバ自足經濟ノ世ニ生産ノ爲メニ發達シタル技術上ノ組織即チ場所的人的團體(即チ經營)ニ交通經濟時代ノ特色ナル營利ノ衝動ヲ宿シタルモノガ即チ企業ナリ。從テ經營ハ生産ノ組織ナリ。企業ハ營利ノ組織ナリトイフコトヲ得ベシ。然レドモ精確ニ考フル時ハ營利ハ必ズシモ生産ヲ手段トセズ。從テ企業モ亦必ズシモ生産ヲナサズ。交通經濟ノ完成シタル社會ニハ企業ハ生産ヲナサズシテ單ニ營利ヲ爲スコトアリ。而シテ其場合ニモ技術上ノ組織ヲ有ストセバ此組織ヲ經營ト呼ブベキハ當然ナリ。サレド之ヲ生産ノ組織ト解スルハ不相當ナラズヤ。關氏ハ此點ヲ氣遣ハレテ生産ヲ廣義ニ解ストイハレタリ(前號四九頁註三)ヲ見ヨ。蓋シ普通ニイフ生産ハ最初ニ述ベタル通り物質的技術的ニ財ノ形質ヲ變ズル行爲

即チ農工等ニ限リ商業交通業金融業等ヲ含ムコトナキガ故ニ此等ノ總テヲ包含スル意味ニテ廣義トイハレタルナラン。然レドモカクテハ現今獨逸系ノ經濟學一般ニ通用スル所ノ「生産」ノ觀念ニ註ヲ加ヘテ其意味ヲ少シク變ゼシムルコトナルガ故ニ余ハ寧ロ此場合ニ經營ハ生産ノ組織ナリトイフ說ヲ探ラズシテ財ヲ獲ル技術上ノ組織ナリトスル福田博士ノ說ニ左袒セントスルナリ。技術上トイヘバ獨リ農工ノ如ク財其物ニ形質上ノ變化ヲ生ゼシムルコト(所謂「生産」)ノミナラズ、又財ノ位置ヲ空間的ニ變ズル所ノ運送業(既ニ所謂「生産」以外)ヲ含ミ、又交通組織ノ上ニ於テ財ノ位置ヲ消費者ニ近ヅカシムル所ノ商業ヲ含ミ、尙進ンデ財ノ生産消費ニ毫モ直接關係セザル所ノ營利業、例ヘバ銀行、保險、株式取引所ノ如キモ皆其内ニ包含セシムルコトヲ得ベシ。運送、商買、銀行、保險等ノ企業ニハ生産ノ半面ナケレドモ尙ホ技術ノ半面アリ。鐵道ガ停車場及其事務的組織ヲ設ケ若シクハ商人ガ商店ヲ設ケテ消費者ノ爲メニ必要ナル諸品ヲ適宜ニ取合セテ貯ヘ置クハ技術上ノ組織ナリ。即チ經營ナリ。銀行及保險會社ガ事務所ヲ設ケ、人ヲ雇ヒ、課ヲ分チ、帳簿ヲ具ヘテ債權債務ノ關係ヲ明カニ記錄シ置クモ亦技術上ノ組織ナリ。即チ經營ナリ。要ス

ルニ技術ハ生産ノ爲メノミニ存セズ、店舗管理ノ上ニモ、帳簿組織ノ上ニモアリ。經營ハ生産ノ爲メノミニ存セズ、單ナル營利ノ爲メニモ亦之アルナリ。(Philippovich, Grundriss, §. 36. Technik)

(III)

福田博士ガ「現今ノ經濟生活ニ於テ財ヲ獲得スル所ノ組織秩序ヲ技術上ヨリ見テ經營ト名ヅケ、經濟上ヨリ見テ企業ト名ヅク」トイハレタルニ對シテゾムハルトハ「經營ハ勞働團體ナリ、經濟ハ活用團體ナリ」(坂西君ノ譯字ヲ用フ)トイヘリ。余ノ觀ル所ヲ以テスレハ兩者ハ同ジ事ヲ別ノ方面ヨリ見テ事實上同ジ判斷ニ歸着シタルナリ。蓋シ經營ハ技術上ノ組織ニシテ自足經濟ノ時代即チ企業發生ノ前ヨリ存在シタリ。然ラハ現今ノ經濟生活ノ下ニ經營ハ企業ノ技術的側面ヲ成ストイフモノハ自足經濟時代ニ於テ經營ノ經濟的側面トナリシモノヲ指示シ得ベキ道理ナリ。而シテソハ明カニ其自足經濟ノ主體タルモノナリ。即チ家族、寺院等ノ特殊經濟カ、然ラズンバ氏族及村落ノ如キ綜合經濟ナリ。(註)特殊經濟ニ屬スル經營ノ目的ハ其特殊經濟ノ單獨ノ慾望満足ニアリ。綜合經濟ニ屬スル經營ノ目的ハ其綜合經濟

ヲ組織スル所ノ分子タル各特殊經濟ノ慾望満足ニアリ。要スルニ何レモ自足即チ自己ノ生産ヲ以テ自己ノ消費ニ充ツルコトヲ主義トスルモノナリ然ルニ企業ハ之ニ反シテ營利ヲ主義トスルモノナリ。生産ヲナス場合ニハ其生産ハ自己生産ニアラズシテ顧客生産又ハ市場生産ナリ。他人ノ慾望満足ノ爲メニ生産スルナリ。他人ノ爲メニ生産スル理由ハ自己ノ金錢上ノ利益ヲ營マンガ爲メナリ。即チ營利ニアリ。サレバ古ノ家族、寺院ト今ノ企業トハ同ジク一種ノ經濟(即チ經濟單位)ナリ。(註二)而シテ兩者ノ經濟上ノ區別ハ一ガ自足ヲ主義トシーガ營利ヲ主義トスル所ニアリ。

註一「特殊經濟(Einzelwirtschaft)及綜合經濟(Gesamtwirtschaft)ノ術語ハ福田博士ニ依ル同氏國民經濟原論五三頁五四頁」

註二「企業ヲ經濟ト見ルニ就テハ異論アルベシト雖モ此ニハ辯解セズ、

然レドモ營利ヲナス所ノ經濟ハ皆之ヲ企業ト名ヅクベキニアラズ。企業ハ他ニ目的ナク單純ニ營利ノミヲ目的トスル所ノ經濟ナラザルベカラズ。自足經濟ヲ原則トセル日本ノ王朝又ハ鎌倉室町時代ノ王侯、貴族、寺院ハ自足ノ爲メニスル生産

ノ經營ヲ有シ時トシテ其餘剩ヲ市場ニ賣出シ、且市場ヨリ自己ニ必要ナルモノヲ買入レタリ。併シ此等ハ勿論企業ヲ以テ目スベキニアラズ。次ニ鎌倉時代ヨリ發生シテ今日ニモ存在セル所謂職人即チ手工業者ハ彼ノ王侯、貴族、寺院トハ異リテ別ニ自足ノ方便ヲ有セズ。自己ノ勞働ニ對シ、自己ノ生産物ニ對シテ與ヘラル、所ノ金錢上ノ報酬ニ衣食スルモノナリ。金錢上ノ利益ヲ營ムコトハ彼等ノ經濟ノ必要條件ナリ。併シ吾人ハ手工業者ヲ企業者ト呼バザルベシ。シュモラーハゾムバルトニ反對シテ而カ呼バントスルガ如キモ是レハ普通ノ用語法ニ適合セザルナリ。

(Grundriss I. Bd. § 139) 然ラバ此ノ如ク營利ヲ爲スコトハ未ダ企業ノ觀念ノ全體ニアラズトセハ企業ト企業ニアラザルモノトノ區別ハ何處ニアリトイフベキヤ。愚見ニ依レバ企業ハ一ノ經濟ナリ。即チ其自身ノ組織ヲ有シ、其自身ノ獨立ノ存在ヲ有スル所ノ社會上ノ機關タルコトヲ要スルナリ。自足經濟ノ時代ニ於ケル經濟ハ家族、寺院、僧院ノ如ク其經濟内ニ於テ生産及消費ヲナスモノナリ。此家族等ハ現今ニモ存在セリ。併シ現今ノ家族ハ主トシテ消費ノ機關トナリ、生産ノ任務ヲ企業ニ讓リタリ。又金錢上ノ利益ヲ得ルモ單ニ之ヲ必要ナル消費ニ充當スルノミニテ其

利益ヲ得ルノ行爲ハ之ヲ同ジク企業ニ委スルコト、ナリタリ。是ニ於テ企業ハ生産ノ爲メ、營利ノ爲メニ存在スル所ノ經濟トナリタリ。手工業者又ハ小商人ノ輩ハ營利ニ依テ衣食スト雖モ彼等ノ家計ト營業ハ混同セラル、ナリ。其工場ノ經濟ト家庭ノ經濟其「店」ト「奥」トノ會計ハ區別セラル、コトナシ。營業上ノ動機ト家族隣人ニ對スル感情ト混同セリ。此ノ如キハ家族以外ニ未ダ企業トイフ獨立ノ機關ヲ分化セシムルニ至ラザルモノナリ。之ヲ要スルニ企業ハ單ナル營利行爲ニアラズ、永續的、秩序的ナル職業トシテノ營利行爲ニモアラズ、更ニ進ンデ社會上營利ノ機關トシテ他ノ機關ヨリ獨立シタル組織ヲ有スルニ至リタルコトヲ要ス。經濟主義ヨリイヘバ營利ノ衝動ガ他ノ感情ヲ離レテ單純ニ發動スルコトヲ要件トナスナリ。

右ニ述ベタル愚見ハ企業ノ意義ノミニ關シテイヘバゾムバルトト大體ニ於テ一致シ居レドモ經濟形態及經濟主義ニ關スル大體論トシテハ大ナル差別アリ。試ニ愚見ニ基テゾムバルトノ經濟ノ區別ニ關スル表ヲ批評スル時ハ次ノ如シ。

經濟階段

經濟制度

經濟形態

經濟主義

孤立經濟

一、原始ノ氏族經濟
二、家屬共產體（大家族）經濟

生産經濟ニ關スル獨立ノ組織ナシ

中間經濟

三、生産消費ノ統一セル廣義ノ自足經濟
 四、分裂セル單位ヲ有スル廣義ノ自足經濟
 五、村落經濟
 六、交換經濟(都市經濟)
 七、社會主義經濟
 八、上古ノ奴隸經濟
 九、奴隸經濟(殖民地經濟)
 十、自由勞動ニ依ル資本制交通經濟

慾望充足經濟

社會經濟

三、生産消費ノ統一セル廣義ノ自足經濟
 四、分裂セル單位ヲ有スル廣義ノ自足經濟
 五、村落經濟
 六、交換經濟(都市經濟)
 七、社會主義經濟
 八、上古ノ奴隸經濟
 九、奴隸經濟(殖民地經濟)
 十、自由勞動ニ依ル資本制交通經濟

企業

營利經濟

右表ノ經濟制度一ヨリ七マデヲ一括シテ慾望充足經濟トナスハ不可ナリ。何ト

ナレバー一ヨリ四マデ竝ニ七ハ吾人ノ所謂自足經濟ナリ。一經濟ノ内ニ生産ト消費トヲ爲スモノナリ。之ヲ慾望充足主義トイフモ可ナリ。五ニ至リテハ既ニ營利ノ分子アリ。例ヘバ村鍛冶ハ恐ラク其小ナル田地ヲ有シ農ト工トヲ兼業トナスナランモ而カモ其鍛冶タル所以ハ金錢上ノ利益、少クトモ交換ニ依テ生ズル利益ヲ目的トスレバナリ。六ニ至リテハ大ニ營利ノ分子ヲ有ス。手工業ノ雇人ハ親方ノ家族ニ等シキ職人徒弟ナリ。其顧客ハ都府經濟時代ニアリテハ相知レル近隣ノ人々ナリ。故ニ營利ノ動機ハ家族的又ハ隣保的情誼ト混同シテ充分ニ發動セザリシナラン。

手工業者ハゾムバルトノイヘル如ク身分相應ノ衣食住ヲナサン爲メニ働キタルニテ夫ヨリ少クモ又夫ヨリ多クモ望マザリシナラン。(Mod. Kap. I. s. 86. f. 前號四七頁註然レドモ交換賣買ニ依テ利益ヲ得ル以上ハ是營利ナリ之ヲ營利主義ナラズトシ、慾望充足主義ナリトシテ大家族ノ内部ニ行ハレタル生産ト同一視スルハ不可ナラズヤ。余ハ此點ニ於テハ關氏ト全然所見ヲ同ジクシ「衣食主義」(Nahrungsidee)ト「慾望充足主義」(Bedarfsdeckungsprincip)トノ明白ナル區別ヲ要求セントスルモノナリ。從テ此點ニ就テハゾムバルト說ヲ否認シ、從テ若シ福田博士ガ同說ヲ採用サレタルモノナラハ其説明ヲ請ハザルベカラズ。之ヲ要スルニ愚見ニ依レバ手工業ノ企業ナラザル理由ハ其營利的ナラザルガ爲メニアラズシテ營利主義ノ鈍キガ爲メナリ。營利心ガ他ノ感情ヨリ離レテ單獨ニ發動スルニ至ラザルガ爲メナリ。彼ノ資本主義又ハ資本制(共ニCapitalismノ譯字)トイフ語ニ就テハ種々ノ解釋ヲ付シ得ベキモ衣食ノ爲メ、又ハ社交ノ爲メニ利益ヲ求ムル手工業者又ハ小商人ノ要求ト對照シテ資本増殖ノ爲メニ利益ヲ得財ヲ積マンガ爲メニ財ヲ求ムル近世ノ企業家資本家ノ純營利的ナル、計算的ナル、冷靜ナル、若シクハ冷酷ナル、心理ヲ言表ハサ

ン爲メノ術語ト見テ大過ナカルベシ。然ル時ハ手工業ハ營利主義ナレドモ資本主義ニアラズ、企業ハ營利主義ニシテ且資本主義ナリトイフモ可ナラズヤ。先輩諸賢ノ批判ヲ仰ガントスル所ナリ。

(四)

抽象的ナル觀念論トシテハ以上ヲ以テ略私見ノ大要ヲ盡シタレドモ尙ホ此ニ序ヲ以テ實際上ノ觀察ヨリ得タル二三ノ事項ヲ付記スベシ。

經營ハ技術上ノ組織ナリトイヘバ抽象論トシテハ疑問ノ餘地ナケレドモ實地ヲ見レバ尙イフベキコトアリ。例ヘバ工場ハ一ノ經營單位ナリトスルヲ得ベシ。彼ノ縦斷的及横斷的合成ノ場合ニハ所在地ヲ異ニスル所ノ別々ノ經營ガ一ノ企業ニ統一セラレタリト見ルベキモノナリ。併シ實例ニ於テ屢々アル如ク二箇以上ノ工場ガ接近シテ建設セラレ、其原動力ヲ一ニシ、其倉庫及修繕場ヲ一ニシ、其事務所ヲ一ニシタリトセバ工場及諸設備ノ間ニ密接ナル技術上ノ連絡アリ。之アルト否トニ依テ工場經營ニ重要ナル利害ノ影響ヲ生ズルナリ。然ル時ハ其全體ヲ以テ一ノ經營ト見ルベキヤ、將タ各工場若シクハ倉庫ヲ夫々一ノ經營ト見ルベキヤ。是

ノ疑問ナルベシ。而シテ余ノ見解トシテハ各工場ヲ物品製作ノ爲メノ經營ト看做シ其汽關室トノ連絡ヲ原動力ノ爲メノ一經營ト看做シ、事務所トノ連絡ヲ事務取扱上ノ一經營ト看做シ、而シテ各其目的ニ依テ立ツ所ノ別々ノ經營ガ重複シテ存在セルコトヲ認ムルモノトリ。

次ニ生産ノ過程ヲ連結スル場合ニ於テ例ヘバ鑄物場ト鍛冶場ト機械場ト(Forging, Smithg and Machine shop)ガ一箇所ニ併置サレタル時ハ之ヲ經營ノ連結サレタルモノト考フベキヤ、全體トシテ一ノ經營ヲ成スモノト考フベキヤ。若シ其ノ全體ヲ一ノ經營ト看做スナラバ米國ノ「製鋼トラスト」ノ如ク鑛山ト鐵道ト汽船ト製鐵爐(blast furnace)ト製鋼所(Steel works)トヲ縦斷的ニ連結シタル場合ヲモ之ヲ全體トシテ一ノ經營ト看做スベキヤ否ヤ。是亦一ノ疑問ナリ。併シ此ニ至テハ最早論理上ノ解釋ヲ與フルコト能ハザルモノト信ズ。吾人ハ唯其技術上ノ連絡ノ厚薄ニ依リテ常識上ヨリ前者ヲ一ノ經營ト稱シ、後者ヲ多數ノ經營ノ連結ト見ルノミ。

次ニ或一ノ工業地ニ於テ一種ノ物品ノ生産ノ各過程並ニ其補助的業務ガ個々別々ノ企業ニ依テ營マレナガラ相互ニ密接ナル技術上ノ連絡ヲ有シ、恰カモ一ノ

企業ガ大規模ニ營マル、ト同様ノ便益(生産費ノ節約)ヲ爲サシムル場合ニハ其經營單位ノ境界ヲ何レニ定ムベキヤ。ト問フモノアランカ。ソハ容易ニ判斷スルコトヲ得ベシ。即チ經營ハ一ノ組織ナリトイフ語ニハ一ノ意思。ニ依テ支配サル、トノ意味ヲ含メルナリ。從テ工業地ノ各工場ガ獨立ノ經營タルコトハ明カナリ。但シ大工業地ノ外部經濟(External Economy)ガ大企業又ハ大經營ノ内部經濟 (Internal Economy) ト同様ノ經營上ノ效果ヲ生ズルコトハ勿論逸スベカラザル著明ノ事實ナリ。(Marshall, Principles. Book IV. 四十二年三月本誌所載拙稿英米木棉工業ノ比較)

又抽象論トシテハ企業ハ營利ノ組織ナリトイヘバ疑問ヲ要セザレドモ實地ノ觀察上ニハ之ニ付テモ亦イフベキコトアリ。企業ハ營利ノ組織。ナリ即チ慾望充足ノ組織タル家族ヲ離レテ唯營利ノ目的ノ爲メニ存スル組織。ナリトイフモ實際上其組織ノ境界ヲ定メントスレバ屢々疑ヲ生ズルナリ。例ヘバ(第一)ノ會社ガ損益ヲ中和スル目的(註)ヲ以テ多種多樣ノ工業ヲ同時ニ買收經營シタリトセバ其會社ヲ一ノ企業ト見ルカ、別々ノ職業ニ屬スル所ノ各部ヲ一ノ企業ト見ルカ(第二)若シ此場合ヲ會社ヲ企業ト見ルナラバ彼三菱合資會社ノ如ク損益中和其他何等ノ經濟

上一貫シタル理由ナシニ金鑛ト炭坑ト銀行トヲ同時ニ經營スル場合ニモ(尤モ此場合ニモ銀行ト鑛山ト連絡ヲナスノ便利アレドモ暫ク夫ヲ別問題ト看做スナリ)尙各部ヲ別々ノ企業ト見ズシテ會社其者ヲ企業ト見ルベキカ(第三)又更ニ一步ヲ進メテ三菱ノ各事業ガ合資會社トイフ形ニ統一セズシテ直接ニ且別々ニ岩崎男トイフ個人ノ所有及支配スル所ナリシト假定セバ如何此等ノ問題ハ經濟上單一ノ組織トイフコトノ解釋ニ依テ定ルベシ。第一ノ場合ハ經營ノ主義ニ於テ既ニ一體ヲ爲スモノナリ。第二ノ場合ハ主義ノ一貫シタルモノナキモ計算上之ヲ一體ト看做シテ所有者ノ家計ヨリ區別シ居ルナリ。第三ノ場合ハ同一ノ所有者ニ對シテ利益ヲ生ズルトイフ點ノミ共通ニシテ其他經濟上ノ組織ニ一體ト看做サルベキ徵候ナシ。常識ニ於テハ第一ト第二ヲ單一ノ企業ト考へ、第三ヲ別々ノ企業ガ一人ニ屬スルモノト考フルナラン。

註 損益ノ中和ニ就テハ本誌四十三年二月號拙稿「工業ノ規模及組織」ヲ見ヨ